

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2006.12) 7巻1号:89.

第40回日本てんかん学会を開催して

橋詰清隆

## 学界の動向

# 第40回日本てんかん学会を開催して

橋 詰 清 隆\*

「てんかん学の21世紀への発展」というテーマの下に、地方都市での開催としては予想を上回る多数の演題応募と700名近くの参加をいただいた。

プログラムには、特別講演3題を企画した。国際てんかん学会議 (ILAE) の新プレジデントとなった Peter Wolf 先生をお招きし、「Development of Seizure Propensity in Seizure Free Patients」というタイトルでてんかんに関する最新の臨床神経生理学の話題を講演していただいた。もう1名はスイスの神経科医である Heinz Gregor Wieser 先生をお招きし、「The State of Art of the Epilepsy Surgery, now and future」というタイトルでてんかん外科治療の現状と未来について講演していただいた。また、本学会の理事長である八木和一先生には「私のでんかん学の軌跡」というタイトルでこれまでの豊富な臨床経験に基づいた研究内容を講演していただいた。

シンポジウム2題は、Symptomatic Epilepsy UPDATE-1、Symptomatic Epilepsy UPDATE-2: Surgery という題名で、外国人参加者にも内容が理解できるように発表、質疑応答ともにシンポジウム内ではすべて英語を公用語としたイングリッシュセッションを企画した。UPDATE-1では、乳幼児、小児、成人、高齢者という年齢別に症候性てんかんに関するトピックスを小児科、神経内科、精神科のシンポジストに発表していただき、UPDATE-2ではそれぞれにおける外科治療戦略について脳神経外科医を中心とした4名が発表した。外国人に日本のてんかん学の発展状況が理解できるように、と企画したこのようなシンポジウムの工夫は会員の好評を得ることができた。

ワークショップは、国内外のてんかん医療で最近問題となっている「てんかんの診断と治療のガイドライン」と「2001年 ILAE 分類 (案) をめぐって」という

2題が専門家らによって発案され、それぞれの専門的立場から報告していただくとともに活発な議論が行なわれた。ガイドラインについては、すでに日本神経学会でもてんかん治療ガイドラインが作成されているが、日本てんかん学会ではより専門的なガイドラインが作成されており一部はすでに学会ホームページなどで公表されている。てんかんの分類は2001年に ILAE の分類 (案) が提出されたが、賛否両論あり、日本からも修正案を提出している。

一般演題も多数の応募をいただき、プログラム委員会により213題が採用され、口演またはポスターとしててんかん学における重要な、また興味ある発表が行なわれ活発な質疑が行なわれた。その他にも、モーニングセミナーと4つのランチョンセミナーを開催し、多数の参加者を得た。機器展示では10社から機器の展示が行なわれ、参加者はてんかんの診断、治療に有用な最新の機器を見て、手に取って体験することができた。

会場は旭川グランドホテルで、合計5会場で上記のプログラムを行なった。会期前日には理事会と評議委員会に加えて各種委員会が開催された。これまでの理事会が任期満了により解散され、選挙によって新理事会が発足した。さらに新理事長の選任が行われたが、新理事長には本大会長である田中達也が選出された。脳神経外科医がてんかん学会の会長に選出されることは国際的にも非常に珍しく名誉なことであり、てんかんの外科治療に限らず、これまでのてんかん診療や、基礎研究によるてんかん学への寄与が評価されたものと思われる。

会期1日目の夜には会員懇親会を開催し、全国から集まった会員が北海道の幸を堪能しながら会員交流や知識の交換が行なわれた。2日間の会期にて本学術大会を盛会裡に終了することができた。

\*旭川医科大学 脳神経外科学講座